

## 目 次

まえがき	1
序章 グローバル・ファシズムは静かに舞い降りる	前田 朗 13
一 錯綜する「時代閉塞の状況」	二 滑落の予感と居直りナショナリズム
三 到来するグローバル・ファシズム	
第1部 ファシズム到来の前兆	
1 監視する権力、監視されたがる民衆	斎藤 貴男 32
一 マイナンバー＝国民総背番号制	二 ドンドン進む国民監視社会
三 管理されたがる民衆	四 国家主義的教育政策
五 時代の「露払い」役を務める差別者	石原慎太郎
六 自民党「改憲」草案	
2 具島ファシズム論と現代日本の政治 —「管理・監視ファシズム」到来の危機—	熊野 直樹 45
一 具島ファシズム論	二 「下からのファシズム」としての「ハシズム」
三 「上からのファシズム」としての安倍内閣による改憲策動	四 「管理・監視ファシズム」到来の危機 — むすびにかえて—
3 有事法は戦争憲法への準備だった	上原 公子 58
一 憲法違反の有事法	二 「自衛隊の民衆化による体制づくり」
三 国民の組織化	四 訓練でじゃましない住民に
五 「国民保護法」の国際法違反	六 有事関連法を憲法改正で裏打ち
4 戦前の報道と現代の報道 — 相似形、ますます強まる	高田 昌幸 70
一 「治安維持法は議会がつくった」	二 新聞に本当のことは載っていない
三 ものを言うのは国策迎合者だけに	四 報道と権力の親和性、戦前と変わらぬ
五 「もっと自由でいい」と権力者も言う世界	六 「社会の公器＝国策遂行」の歴史
七 非常時ほど増す「発表」への信頼	八 「秘密保全法」が招く社会の姿
5 裁判員制度を廃止しよう	高山 俊吉 86
一 裁判員制度	二 裁判員裁判の現状
三 廃止に向けた行動を	
6 虚構に追い立てられる現代欧米社会	童子丸 開 98
一 テロ事件で浮かび上がる現実と虚構	二 国家指導者の嘘と戦争政策
三 虚構をバネに作られる監視社会への流れ	四 仏の嘘、武士の嘘
7 「虚偽は暴力の母」 —ハシズムとナチズム—	木戸 衛一 109
一 「民主主義者なき民主体制」	二 予見できた暴力支配
三 ドイツを一変させた百日間	四 昂進する「再野蠻化」
五 おわりに — ナチスの「鑑」の復権？	

## 第2部 戦争とテロの時代

- 1 安倍政権と新アジア・モンロー派の台頭 ..... 瀬藤 厚 126  
一 なぜ、いま安倍政権か 二 安倍政権はどこに向かおうとしているのか  
三 安倍政権の評価をめぐって
- 2 戦前の日本と現代日本との軍備状況・翼賛体制の比較 ..... 前田 哲男 139  
一 明治軍隊と「最初の砲声」 二 宣戦布告なき開戦という「特技」と「居留民保護」の名分  
三 「新防衛計画の大綱」に受け継がれた体質
- 3 朝鮮半島問題 — 忍び寄るファシズムの影 — ..... 浅井 基文 152  
一 第二次大戦敗北までの対朝鮮半島政策 二 敗戦日本の国際約束と対朝鮮半島政策に関する意味  
三 戦後の対朝鮮半島政策
- 4 韓国における在日韓国人「スパイ」捏造事件から見る、保守政権下民主主義の危機 ..... 李 聆京 165  
一 軍事独裁を維持するための手段、在日韓国人「スパイ」事件の捏造 二 韓国の民主化と民主政権下の過去清算への努力  
三 未完の過去清算 四 過去についての反省なき司法部  
五 過去反省のない検察による控訴と上告 六 既得権になっている国家暴力の「主役たち」  
七 民主主義の危機 — 再び、「スパイ」捏造なのか
- 5 シリア内戦から見た米国軍事政策の本質 ..... 成澤 宗男 181  
一 「化学兵器行使」の疑問 二 「9・11」と「対テロ戦争」 三 主要な目的はイランの体制転覆  
四 偽善とウソと暴力の帝国
- 6 中東イスラム世界から退潮する米国の影響力 ..... 宮田 律 193  
一 米国と閉塞するシリア問題 二 中東の不安定要素 — 同盟国サウジアラビアの武装集団への支援  
三 南アジアにおける米国の戦略の破たん 四 出口が見えないアフガン戦略  
五 米国の情報戦の矛盾と対テロ戦争 六 中東から退潮する米国の影響力
- 7 「沖縄戦再来前夜」の危機に直面した沖縄 ..... 石原 昌家 206  
はじめに — 「沖縄戦再来」を憂慮しはじめた沖縄 一 「沖縄戦再来」の危機の招来  
二 島嶼奪還作戦の日米合同軍事訓練から自衛隊の海兵隊化へ 三 「沖縄戦再来前夜」の危機に対する新たな沖縄の動き  
おわりに — 琉球沖縄の非軍事・非武装思想の再構築
- 8 領土ナショナリズム煽る体制補完物 大手メディア、その報道を検証する — 尖閣諸島問題と日中関係 — ..... 岡田 充 222  
一 報道の変化 二 米国の意図 三 中国の意図

## 第3部 民衆の抵抗と平和・人権論

- 1 日本国憲法の平和的生存権 — 戦争と暴力に抗する手段として — ..... 清水 雅彦 238  
一 憲法の平和主義の構造 ~前文と第九条~ 二 消極的平和主義と積極的平和主義  
三 平和的生存権に関する学説 四 平和的生存権に関する判例 五 「対テロ戦争」時代における意義  
六 国連での平和への権利を巡る議論 七 自民党改憲案の平和主義
- 2 広がる政治弾圧と刑事司法 — 裁判所の問題を中心に ..... 下地 真樹 250  
一 日常の弾圧に見る「権力のホンネ」 二 不当に逮捕された！ — JR大阪駅事件

三 不当に勾留された！—「黙示の共謀」という万能理論	四 弾圧に加担する裁判所	
五 弾圧を跳ね返すために		
3 「慰安婦」問題と歴史修正主義	西野瑠美子	262
一 「慰安婦」を教えることは誇りを失わせる？	二 主体と責任 — 軍と業者の関係	
三 強制したのは業者？	四 「強制連行」の概念	五 「慰安婦は公娼」に見る複合差別と女性蔑視
4 植民地支配・強制連行と朝鮮人被爆者	高實 康稔	274
一 段階的に強化された強制連行	二 広島・長崎に激増した強制連行	三 差別・排除されてきた韓国・朝鮮人被爆者
5 沈黙は許されない	辛 淑玉	286
6 ファシズムは復活するのか、ファシズムは継続しているのか？		
— 東アジアで考えたこと—		
	徐 勝	292
一 台北光州「五月」版画展	二 ファシズムは死滅しなかった	三 精神の戒厳令
四 台湾、「日治」か「日拠」か？	五 韓国国家情報院の政治介入	六 維新の追憶
七 継続する親日派・植民地レジーム	八 死滅せぬファシズムの根を断たねばねらない	
終章 忍び寄るグローバル・ファシズムの危機		
— 戦争前夜の時代状況に抗して—		
	木村 朗	309
一 9・11事件と対テロ戦争の拡大	二 日本の急速な警察国家・監視社会化 — 民主主義からファシズムへの移行の危機	三 排外主義的ナショナリズムの台頭と戦争準備体制の構築
四 いま、私たちに問われていること — 戦争とファシズムに抗して		
あとがき		335
参考文献		339
編・著者紹介		357